

# 市民文芸

## 短歌

阿南市文化祭短歌大会選

### 市長賞

二度咲きの瑠璃の茉莉花踊り子の吐息のよう  
な香りを零す  
松島 博子

### 議長賞

五体みな自在に動くよろこびを万物に謝す今  
日八十歳  
松本加代子

### 教育長賞

秋高し子を差し上げてあやし居る甥はいつし  
か父の顔持つ  
金本ひろみ

### 中学生の部入賞者

新野・福井中学校  
北原 琢磨

### 入選

思い人とフォークダンスで手をさわり手汗い  
っぱい緊張も有り  
久米 真優

### 入選

肌寒い朝はなかなか起きられず「あともう少  
し」と大きなみの虫  
澁谷幸之助

### 入選

あの日見たたそがれの空美しい秋の夕焼け燃  
えるスカーレット  
国吉 空来

### 入選

バクバクとうるさい音が止まらないやる気全  
開よーいスタート  
長谷 春奈

### 入選

清涼のもみじ舞いゆく秋の空福井の自然も色  
付き始める

### 入選

見ないでよ手を取り踊るこの姿スカートふわ  
りドキドキするよ  
大谷 寧々

### 入選

さつまいもついつい食べちゃうこの季節今年  
の秋も食欲旺盛  
高鶴 結

### 入選

外に出て空眺めれば星月夜秋の夜空は月にか  
ぎらん  
山本 瑠那

## 俳句

阿南市俳句連合会選

山の端の空海の寺紅葉濃し

谷脇 春代

冬日落つ帰り支度の陰残こし

繁木 良子

境内はひっそり閑や神の留守

瀬藤 豊子

近縁に若き指揮者や大根引く

陶久 晴義

球打ちて小春日和を満悦す

工藤千鶴子

間引き菜の色も香も良く朝の膳

湯村 陽子

腹心の友逝く知らせ稷稻

張本 雅宣

城跡の丸き石垣冬ぬくし

吉崎 晶子

老友の焚火に集ふ冬初め

奥田 蒼朗

定年を祝う親父の牡丹鍋

大西 里美

## 川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

まだ夢はあります今日の予定繰る

野口 吾朗

浮いてます仕方ないです美人です

滝川 太郎

いたわり合う結び目かたい老夫婦

佐藤つたえ

妻寝言聞き取れないが気に掛かる

西田 修身

万歩計いっぽ歩の命乞い

高木 旬笑

### 一般応募

さざ波はキミの微笑み初春を呼ぶ  
身の丈に合わせた服で若く見せ

仁井 信子  
島尾美津子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

### 新春揚風大會

旭光燦燦五雲中

旭光 燦々 五雲の中

曳杖那川西又東

那川に杖を曳いて 西又東

歎喜兒孫遙指處

歎喜の兒孫 遙かに指す処

紙鳶遠近舞上空

紙鳶 遠近 上空に舞う

津乃峰神社に詣ず

曲徑を攀じ来り晴空に対す  
攀来曲徑対晴空

社殿熙熙瑞氣籠

社殿 熙々として瑞氣籠む

戊戌安寧禱康健

戊戌の安寧 康健を禱り

瞰臨絶景橘湾風

瞰臨すれば絶景 橘湾の風

千利休の待庵に題す

天王山下 路西東  
茶聖の専心 豊公に違う  
土壁の小庵 足らざるは無く  
方に生死を知つて 松風を聴く

天王山下路西東

天王山下 路西東

茶聖専心違豊公

茶聖の専心 豊公に違う

土壁小庵無不足

土壁の小庵 足らざるは無く

方知生死聽松風

方に生死を知つて 松風を聴く

阿南の歳朝に題す

角峰旭上つて 五雲耀やき  
北脇潮香萬壽伸 万寿伸ぶ  
昌運阿南太平裏 太平の裏  
満衢淺酌賀正人 賀正の人

角峰旭上五雲耀

角峰旭上つて 五雲耀やき

北脇潮香萬壽伸

北脇潮香つて 万寿伸ぶ

昌運阿南太平裏

昌運の阿南 太平の裏

満衢淺酌賀正人

衢に満つ浅酌 賀正の人

阿南の歳朝に題す

角峰旭上つて 五雲耀やき  
北脇潮香つて 万寿伸ぶ  
昌運の阿南 太平の裏  
衢に満つ浅酌 賀正の人

角峰旭上五雲耀

角峰旭上つて 五雲耀やき

北脇潮香萬壽伸

北脇潮香つて 万寿伸ぶ

昌運阿南太平裏

昌運の阿南 太平の裏

満衢淺酌賀正人

衢に満つ浅酌 賀正の人

※松風：茶の湯の沸く音